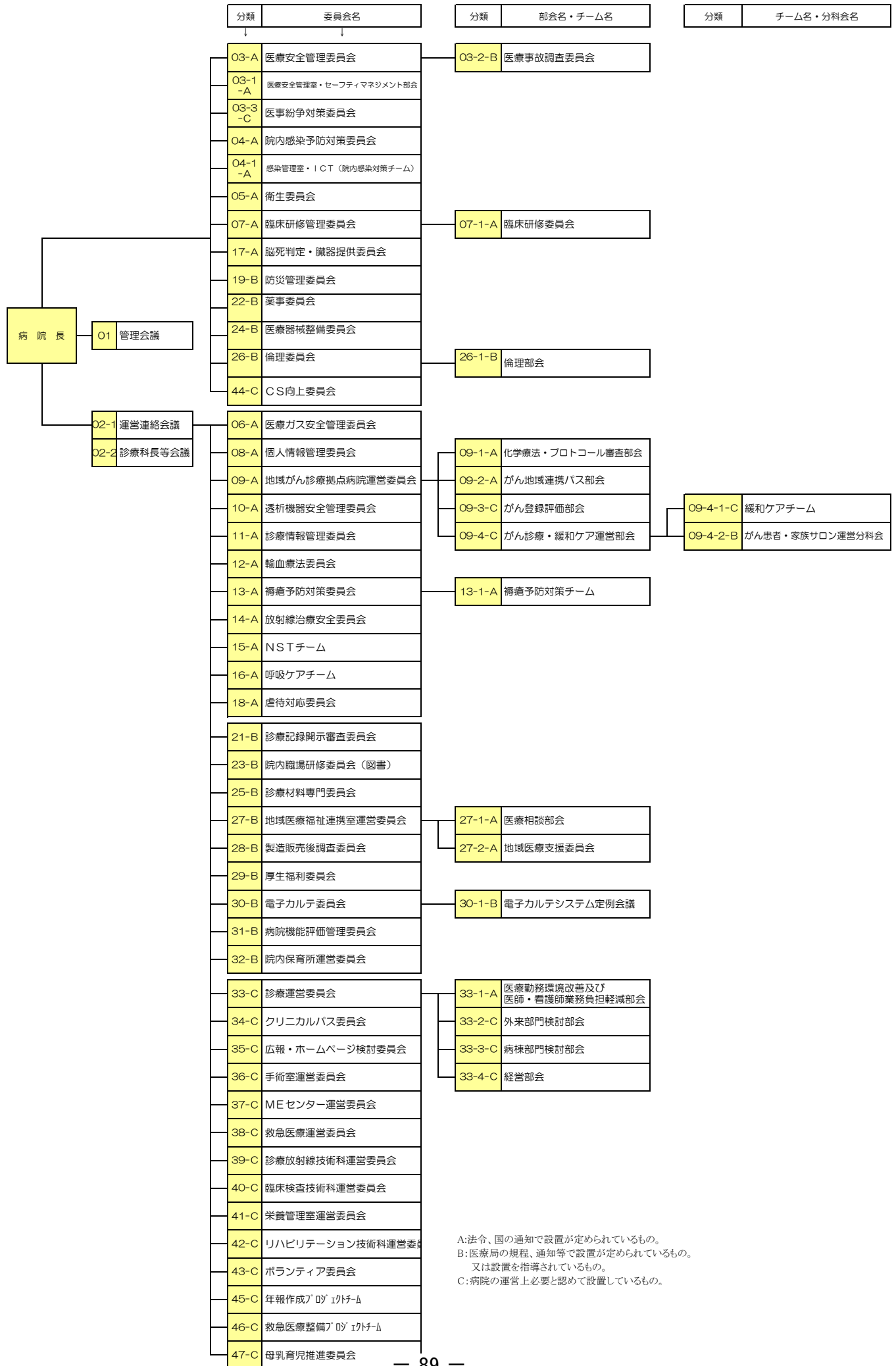


## Ⅲ 委員会活動報告

# 《 委員会組織図 》



A:法令、国の通知で設置が定められているもの。  
 B:医療局の規程、通知等で設置が定められているもの。  
 又は設置を指導されているもの。  
 C:病院の運営上必要と認めて設置しているもの。

# 医療安全管理委員会

医療安全管理専門員 須田 佳与

委員長 齋藤 桂一

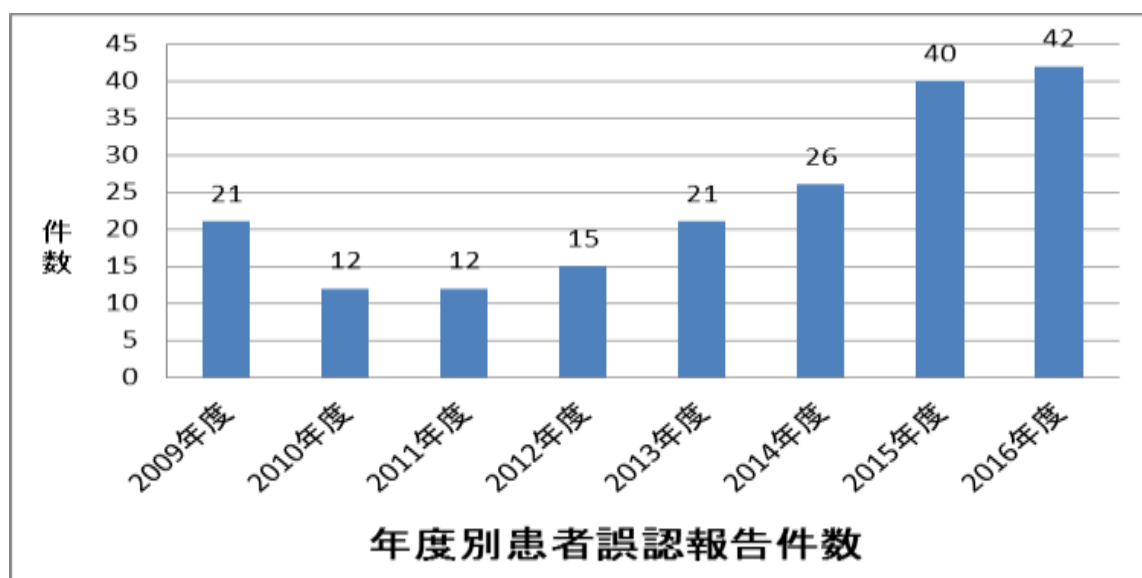
委員 本庄 省五、須田 佳与、加藤 博孝、佐藤 耕一郎、川守田 厚、佐山 英明、勝田 元、高橋 幹夫、馬場 美喜、小田島 淳子、小野寺 つや子、和泉 美奈子、三浦 実千代、菅原 朋則、山谷 一善、高山 秀和、田中 佳子、川越 順一

医療安全管理委員会は、院内の医療安全に関すること、医療事故への対応に関することなど協議し、決定しております。平成 28 年度医療安全管理委員会は上記構成員 19 名にて、12 回開催しました。医療安全管理委員会の所掌事項は以下のとおりです。

- (1) 医療事故防止対策の検討及び推進に関すること。
- (2) 医療事故の分析及び再発防止策に関すること。
- (3) 発生した医療事故等への対応方法に関すること。
- (4) インシデント事例の分析及び再発防止策に関すること。
- (5) 医療安全集中管理システムの管理に関すること。
- (6) 医療安全のための研修計画策定と実施に関すること。
- (7) その他、医療事故等に関すること。

医療安全管理委員会は毎月開催し、医療の安全に関わる対策や職員の教育などを検討しています。平成 28 年度は、特に患者誤認防止に取り組み、様々な場面で患者さんに名乗って頂く確認方法を全職員へ周知徹底しました。その結果、患者誤認による報告レポート件数は増加し、患者誤認へのリスク感性が高くなってきています。患者誤認は、大きな事故につながる危険性があるので、今後も患者誤認防止は厳守していきます。

また安全な組織としての醸成を目的にて、医療安全研修会は、院内外の講師にて 11 回の研修会を開催し、全職員が施設基準で定められている研修会に 2 回の参加ができました。今後も安全な医療の提供を行うため、委員会としての役割の遂行に努めてまいります。



# 院内感染予防対策委員会

感染管理室長 本庄 省五

## 【活動内容】

- ・ 1回／月 院内感染予防対策委員会の開催
- ・ 院内感染研修会の開催
- ・ 1回／週 感染対策実施状況確認ラウンドの実施と評価
- ・ 院内感染予防対策マニュアルの改訂と周知
- ・ 院内感染発生状況の把握と対応（インフルエンザ・薬剤耐性菌検出状況、手術手技関連感染（SSI）、中心静脈カテーテル関連感染（CLA-BSI）など）
- ・ 厚生労働省院内感染対策サーベイランス事業参加（全入院患者部門・SSI 部門・臨床検査部門）
- ・ 抗菌薬適正使用に向けての取り組み（毎週火曜日症例検討実施、コンサルテーション含む）
- ・ 感染防止対策加算に伴う他施設との感染連携（カンファランス（年4回）、相互評価年2回）

ICTメンバー及び看護科院内感染予防対策リンクナースと協力し、院内感染対策の徹底に向けて感染管理を実施している。ICTコアメンバーが中心となり、毎週の感染環境確認ラウンドを実施し院内の感染対策実施確認及び意識向上に向けて取り組みを行っている。今後の課題として、感染対策の指標の選定及び感染対策を見える化（数値化）することである。評価し、さらなるステップアップができるよう取り組みを図っていきたい。

## 【研修会実施報告】

開催日	内容	講師
2016/ 5/18	第1回 院内感染対策研修会 (医科歯科連携研修会兼県病医学会歯科分科会) 【病院で行うべき口腔ケア】	一関歯科医師会理事 三浦 康弘
2016/10/24 ・26	第2回 院内感染対策研修会（必須） 【手指衛生】	検査科 塩越 真由美 薬剤科 高橋 康介
2016/11/ 7 ～10	第3回 院内感染対策研修会（必須） 【インフルエンザ対策～ワクチン～】	薬剤科 高橋 康介
2016/11/8	第4回 院内感染対策研修会 【インフルエンザ対策～対策～】	検査科 高橋 幹夫 看護科 佐京 里美
2017/2/18 ～16	必須研修1 追加DVD研修（第2回開催分）	
2017/3/16 ～23	必須研修1 再追加DVD研修（第2回開催分） 必須研修2 再追加DVD研修（第3回開催分）	

# 衛生委員会

総務課総務係 主事 齋藤 千華

## 1 部門の紹介・概要

労働安全衛生法に定められているとおり、衛生に関することを調査・審議し、事業者に意見を述べる機会として当委員会を月に1回開催しています。

当委員会では、おもに以下のことが審議されています。

- (1) 職員の予防接種・健康診断に関すること
- (2) 職員の労働災害に関すること
- (3) 職員の過重超過勤務に関すること
- (4) 職員の労働環境に関すること

## 2 部門の実績または活動内容

	衛生委員会に関連する活動	衛生委員会開催日
4月	・平成28年度衛生委員会活動計画策定 ・委員会設置要綱の確認	平成28年 4月28日
5月	・第1回職員健康診断 ・職員の喫煙状況に関する調査 ・院内巡視についての検討	平成28年 5月31日
6月	・院内照度測定について	平成28年 6月30日
7月	・B型肝炎第1回予防接種 ・共済組合健康推進事業についての検討	平成28年 7月25日
8月	・過重超過勤務の調査	平成28年 8月30日
9月	・QFT検査 ・B型肝炎第2回予防接種 ・共済組合健康推進事業	平成28年 9月29日
10月	・職員インフルエンザ予防接種についての検討	平成28年10月28日
11月	・職員インフルエンザ予防接種	平成28年11月24日
12月	・第2回職員健康診断 ・風疹、水痘予防接種	平成28年12月28日
1月	・胃がん、大腸がん、肺がん、腹部超音波検診 ・職員の喫煙状況に関する調査	平成29年 1月31日
2月	・婦人病検診 ・B型肝炎第3回予防接種	平成29年 2月28日
3月	・研修医採用時健康診断	平成29年 3月22日

# 薬事委員会

主任薬剤師 高橋 康介

## 1 部門の紹介・概要

薬事委員会の活動内容は、医薬品・検査試薬の新規採用・整理・変更・中止、副作用情報、医薬品情報、管理・医療整備、経営に関する問題等多岐にわたる。メンバーは、医師、薬剤師、看護師、検査技師、医療安全専門員、事務で構成され、年間6回、定期開催している。

45分間という会議時間を有意義に活用するため、新規申請薬品に関する情報、報告事項などを必要最小限に抑え、医薬品情報は、院内メールや掲示板を活用した。病院の収益に大きく影響する後発医薬品の採用については、医療局推奨後発医薬品を中心に切替えを検討した。さらに後発医薬品の適応拡大に伴う採用薬の見直しを行い、影響の大きな品目の後発医薬品への切り替えを行った。

## 2 部門の実績

院内採用品目数(H29.3現在)		薬事委員会								
項目		前年度	今年度	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	合計
開催回数		6回	6回	5月12日	7月14日	9月8日	11月10日	1月12日	3月9日	
本採用薬品数	内服薬	73	23	5	7	0	8	1	2	23
	注射薬	38	44	4	6	5	11	2	16	44
	外用薬	33	9	0	1	3	3	0	2	9
	薬品合計	144	76	9	14	8	22	3	20	76
	試薬	29	80	7	4	3	0	7	59	80
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	173	156	16	18	11	22	10	79	156	
削除薬品数	内服薬	35	20	3	6	0	7	2	2	20
	注射薬	21	37	3	5	0	9	6	14	37
	外用薬	12	2	0	0	2	0	0	0	2
	薬品合計	68	59	6	11	2	16	8	16	59
	試薬	34	71	7	4	3	0	10	47	71
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0
計	103	130	13	15	5	16	18	63	130	
仮採用薬品数	薬品	14	37	6	8	3	6	5	9	37
	試薬	10	0	0	0	0	0	0	0	0
	計	24	37	6	8	3	6	5	9	37
全院内採用薬品数	内服薬	680	683	2	1	0	1	▲1	0	3
	注射薬	466	473	1	1	5	2	▲4	2	7
	外用薬	231	238	0	1	1	3	0	2	7
	検査試薬	610	619	0	0	0	0	▲3	12	9
	その他	49	49	0	0	0	0	0	0	0
	計(試薬除く)	1,426	1,443	3	3	6	6	▲5	4	17
	計	2,036	2,062	3	3	6	6	▲8	16	26
院内採用している後発薬品数	内服	223	228	2	0	0	3	0	0	5
	注射	159	164	0	2	0	0	1	2	5
	外用	61	62	0	0	0	1	0	0	1
	その他	7	7	0	0	0	0	0	0	0
	計	450	461	2	2	0	4	1	2	11

# がん診療・緩和ケア運営部会

看護師長 和泉 美奈子

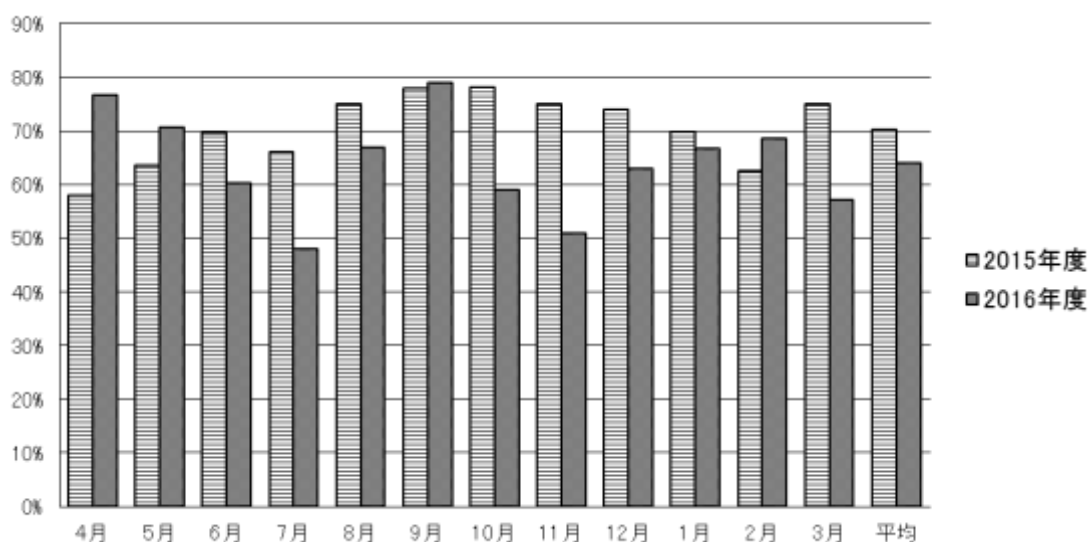
## 1 委員会の紹介

緩和ケア病棟、緩和ケアチームの運営や地域との連携について所掌している委員会です。会議は毎月第3水曜日 15時から5階会議室で行っています。メンバーは病院長、副総看護師長、緩和医療科長、薬剤師、MSW、緩和ケア病棟師長、がん性疼痛認定看護師、緩和ケア認定看護師、地域連携室、中部病院：星野医師で構成されています。会議では運営実績、一関在宅緩和ケア支援ネットワーク（IZAK）、緩和ケアテレカンファレンスの報告や、がんに関連した診療報酬の算定状況や緩和ケアの広報について検討されています。

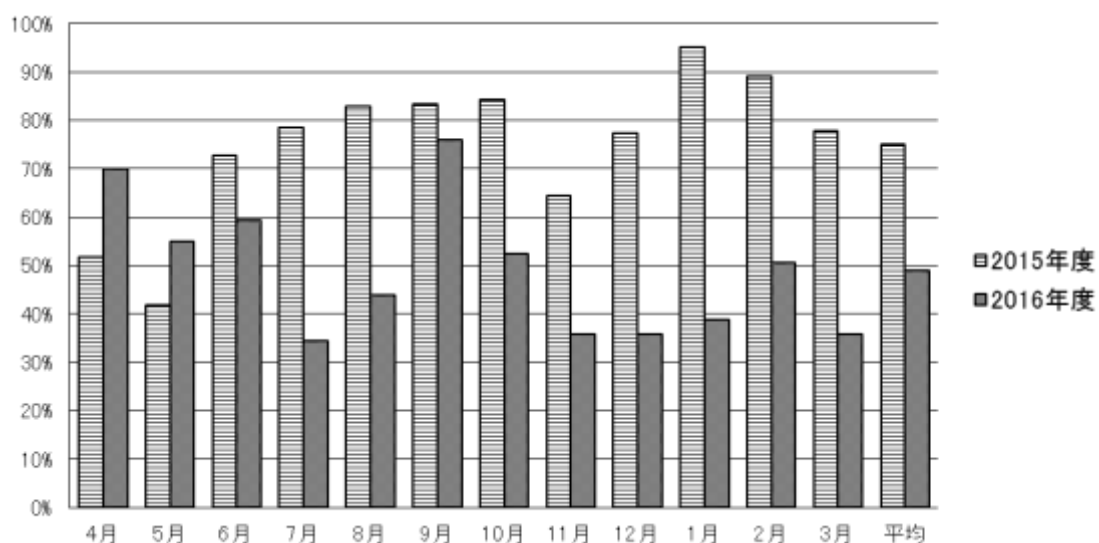
## 2 緩和医療科実績

### (1) 緩和ケア病棟

#### 病床利用率



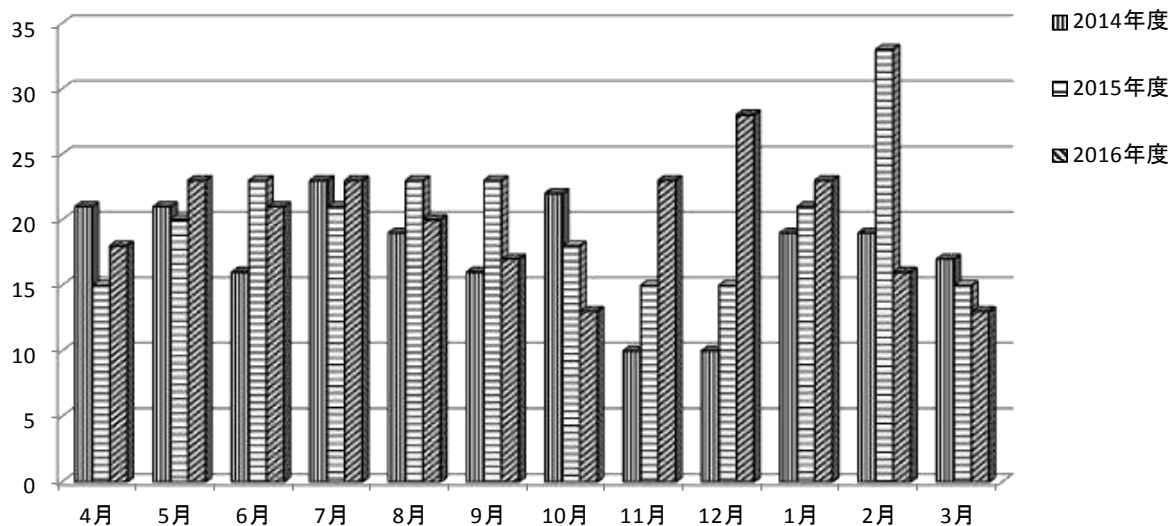
#### 特別室算定率



(2) 緩和ケア外来実績

緩和ケア外来新患年度比較件数

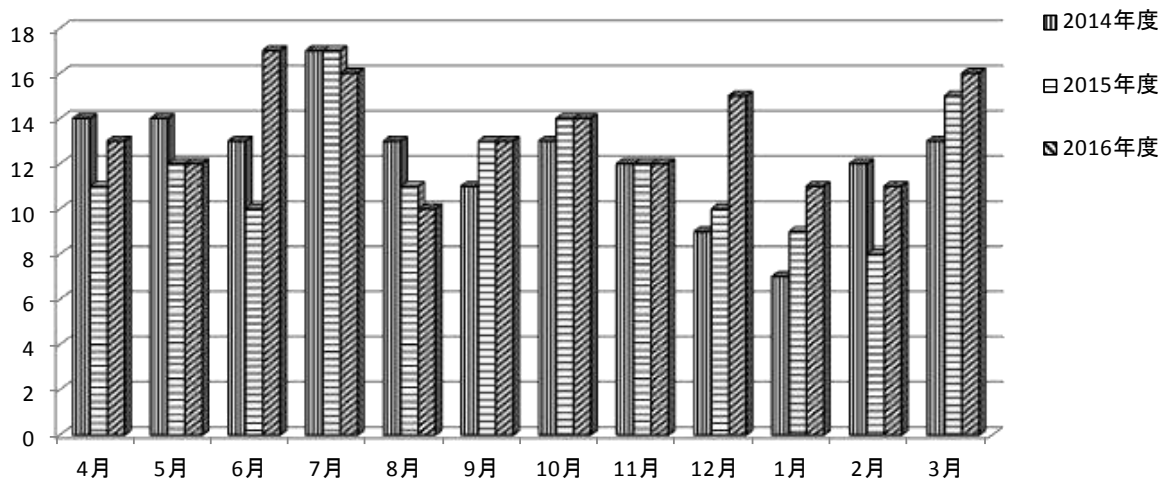
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2014年度	21	21	16	23	19	16	22	10	10	19	19	17	213
2015年度	15	20	23	21	23	23	18	15	15	21	33	15	242
2016年度	18	23	21	23	20	17	13	23	28	23	16	13	238



(3) リンパ浮腫外来実績

リンパ浮腫外来年度別比較件数(リンパ浮腫ドレナージ料 5,210円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
2014年度	14	14	13	17	13	11	13	12	9	7	12	13	148
2015年度	11	12	10	17	11	13	14	12	10	9	8	15	142
2016年度	13	12	17	16	10	13	14	12	15	11	11	16	160





# がん患者・家族サロン運営分科会

主事 引屋敷 駿

## 1 がん診療・家族サロン運営分科会について

「がん診療・家族サロン運営分科会」は平成 23 年度より設置した『がん患者・家族サロン“こころば”』の運営を行う分科会として平成 24 年度より設置されています。

“こころば”は病院から委嘱したボランティアスタッフにより運営されており、毎週月・金曜日の 10:00～15:00 の時間帯と、毎月第 1 木曜日のピンクリボンサロン(乳がん患者さん対象)をオープンし活動してきました。

平成 28 年度は全 10 名のスタッフが、患者さん等と会話を楽しみつつ悩みや相談も聞き、常に利用者に寄り添った対応を心がけています。

サロン以外の活動では、当院の医師・看護師らを講師とした「よろず講演会」、10 月のピンクリボン月間に併せたピンクリボンツリーの設置や乳がん検診の啓発活動、リレーフォーライフへの参加、開設 5 周年記念の桜町中学校合唱部コンサートなど、様々なイベントを行いました。

今後も、患者さん・ご家族同士の親睦が図れて気軽に話ができる場所となるよう、『心の居場所』づくりを目指していきたいと思います。

## 2 部門の実績、活動内容

開催日	活動内容	会場	参加者数
毎週 月・金曜日	定期サロン開設 (年度内 計 89 回)	がんサロン	延べ 260 名/年
H28. 4. 7	ピンクリボンサロン 押し花カード作り・茶話会	がんサロン	3 名
H28. 5. 12	ピンクリボンサロン ビー玉カード立て作り・茶話会	がんサロン	3 名
H28. 6. 2	ピンクリボンサロン 脱毛に対するウィッグの選び方と頭皮ケア	がんサロン	0 名
H28. 6. 11	よろず講演会・茶話会 「がんピアサポーターって何？」	5 病棟会議室	36 名
H28. 7. 7	ピンクリボンサロン 補整下着講習会・茶話会	がんサロン	0 名
H28. 8. 4	ピンクリボンサロン リレーフォーライフ旗作り・茶話会	がんサロン	4 名
H28. 9. 1	ピンクリボンサロン ここが知りたい! お金の話 医療費・介護費・がん保険・茶話会	がんサロン	2 名
H28. 9. 10 ～ 9. 11	「リレーフォーライフ 2016 いわて」参加	観自在王院跡	8 名

H28. 10. 1 ～ 10. 31	ピンクリボン月間 ツリー設置・啓蒙活動 (一関高等看護学院生の協力)	交流の街	20名
H28. 10. 6	ピンクリボンサロン 脱毛ケア・ウィッグ講習会・茶話会	がんサロン	5名
H28. 10. 27	こころば開設5周年記念 一関市立桜町中学校合唱部コンサート	交流の街	(観覧者) 88名
H28. 11. 10	ピンクリボンサロン リンパ浮腫講習会・茶話会	がんサロン	5名
H28. 11. 17	よろず講演会 『新しい抗がん剤について(胃がん・大腸癌の薬 物療法)』	多目的会議室	45名
H28. 12. 1	ピンクリボンサロン 化学療法の副作用でお悩みの方へヘアメイク& ネイル講習会	がんサロン	1名
H29. 2. 2	ピンクリボンサロン 折り紙教室・茶話会	がんサロン	0名
H29. 2. 17	よろず講演会 「暮らしに役立つストーマの知識」	一関 保健センター	10名
H29. 3. 9	ピンクリボンサロン 放射線皮膚トラブル予防・ケア講習会	がんサロン	0名

## N S T (栄養サポートチーム)

主任管理栄養士 藤野 佳子

### 1 部門の紹介・概要

栄養状態を判定し、もっともふさわしい栄養管理を指導・提言することで患者さんの治療、回復、退院、社会復帰を図ることを目的とする。なお、当該チームは病院長直属の組織として位置づけ栄養対策について患者さんに効果的介入を行なうものである。

2007年	栄養サポートチーム稼働施設認定
〃	栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設認定
2010年 2月	栄養サポートチーム稼働施設認定更新(2010年4月1日～2015年3月31日)
2011年 7月	栄養サポートチーム加算算定開始
〃	栄養サポートチーム専従管理栄養士配置
2012年 2月	栄養サポートチーム専門療法士認定規則実地修練認定教育施設認定更新
2015年 1月	所属長表彰
2015年 2月	栄養サポートチーム稼働施設認定更新(2015年4月1日～2020年3月31日)
2015年 12月	日本栄養療法推進協議会(JCNT)栄養サポートチーム稼働施設認定更新 (2015年9月1日～2020年8月31日)
2016年 4月	栄養サポートチーム加算歯科医師連携加算算定開始

2017年 2月 栄養サポートチーム専門療法士認定規程認定教育施設認定更新  
(2017年4月1日～2022年3月31日)

2 活動報告

(1) NST回診 毎週水曜日 15時～

回診メンバー

NST専任医師(外科・NST委員長)、神経内科医 歯科口腔外科医、専任看護師、専任薬剤師、専従管理栄養士、皮膚・排泄ケア認定看護師、病棟看護師、臨床検査技師、言語聴覚士、理学療法士、管理栄養士、調理師

平成28年度 栄養サポートチーム介入延べ件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
栄養サポートチーム介入件数	39	28	42	43	46	39	34	42	31	18	24	31	417
栄養サポート加算算定件数	38	27	42	28	36	39	34	40	29	17	17	28	375
歯科医師連携加算算定件数(再掲)	10	0	18	7	8	29	17	8	17	0	6	21	141

(2) 栄養サポートチーム専門療法士臨床実地修練

① 実施日 合計5日間(40時間)

2016年9月14日、9月21日、9月28日、10月5日、10月12日

② 受講者 合計5名

看護師2名(院内1名、院外1名)、管理栄養士2名(院外1名、院内1名)、理学療法士1名(院内1名)

(3) NST研修会

2016年10月5日(水) 17:30～18:30

演題 摂食嚥下及び口腔ケア

講師 岩手県立千厩病院 摂食・嚥下障害看護認定看護師 大下 恵 先生

参加人数 62名(院内60名、院外2名)

## 地域医療福祉連携室運営委員会

主査 長倉 学

1 委員会の紹介及び今年度の活動について

地域医療福祉連携室運営委員会は、病診・病病連携を強化するなど地域医療連携の推進を図るために設置された委員会です。今年度においては主に次の内容について協議・活動を行いました。

(1) 紹介・逆紹介率について

(2) 退院支援室の設置、連携施設訪問の実施について

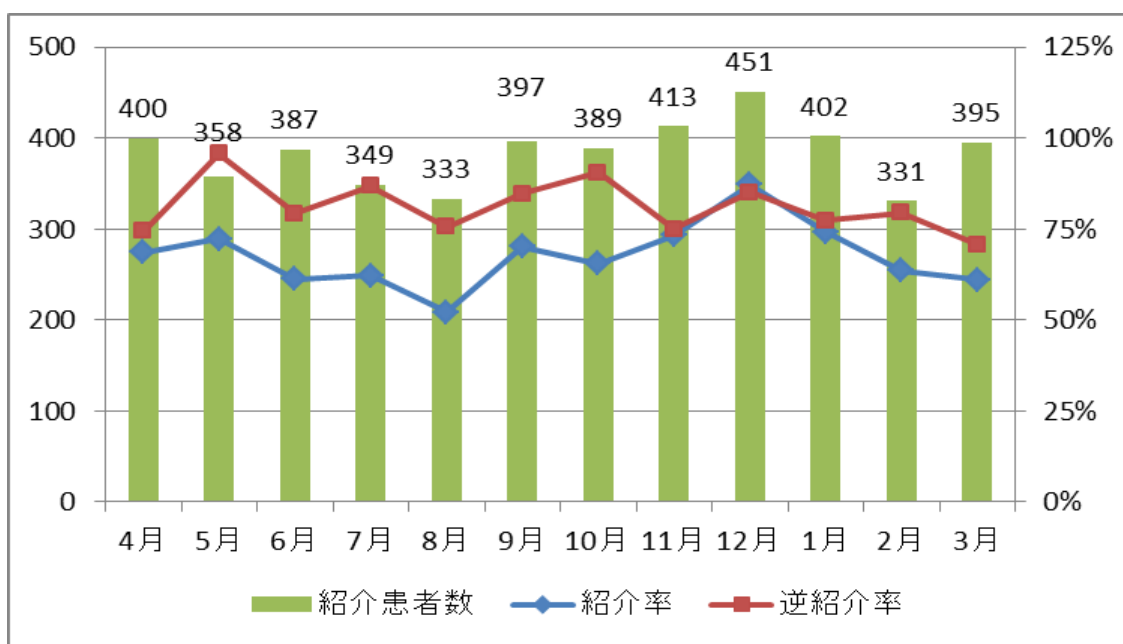
- (3) 地域連携室主催の研修会について（一関市医介連との共催）
- (4) 連携医療機関向け広報誌「連携いわい」の発行について
- (5) どこでも医療講座について
- (6) 地域の医療従事者向け研修会・地域連携パスの実績報告

今年度は、新たな取り組みとして当院と連携している医療機関・施設への「連携施設訪問」を7月からスタートしました。毎月1回、連携室職員（退院支援看護師・MSW・事務）と看護師長で行っており、平成28年度は延べ27施設へ訪問しています。

また、昨年度から一関市と共催で開催している市民向け研修会では、『歩ける幸せをいつまでも－高齢者の骨折について－』と題して、医師や理学療法士、管理栄養士の講演を企画・開催しました。

近年全国的に地域連携が重要視されており、今後さらに進んだ取り組みが必要になってくると思われますので、当院が地域医療の中心的役割を担い地域に貢献できるよう、院内外で協力し活動を継続していきたいと思っております。

## 2 平成28年度の紹介率・逆紹介率の状況



## 製造販売後調査委員会

主任薬剤師 佐藤 美和子

### 1 部門の紹介・概要

臨床試験（治験）を経て承認された医薬品情報は、限られた条件下で実施・収集された情報であり、実際の医療の現場とは異なる点もある。従って、製造販売後の広範な患者に対する有効性・安全性について引き続き調査し監視していく必要がある。このことから、当院でも製造販売後調査委員会にて、市販後調査の実施について審議・承認し、調査を実施している。また、副作用については厚生労働省に報告を行っている。

## 2 部門の実績、活動内容

近年では採用と同時に契約が必要な全例調査対象薬品の使用成績調査が多く、回議書決裁が主で、委員会は年1回開催している。

調査実施状況は下表の通りである。契約している調査件数は毎年同じくらいであるが、1調査あたりの症例数・調査票数は減少傾向にある。

調査終了時は企業へ調査費用を請求しているが、医師と企業の適切な連携の指針として日本製薬工業協会の「企業活動と医療機関等の関係の透明性ガイドライン」がある。この中で副作用・感染症症例報告費、製造販売後調査費について各企業が2016年度支払分から、施設名、件数、金額を自社のウェブサイト公表することを定めている。このことを平成28年度の委員会で実施状況とあわせて報告した。

調査目的	調査件数（件）				
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
特定使用成績調査	25	19	16	16	12
使用成績調査	0	5	9	8	13
副作用調査	7	5	2	1	5
計	32	29	27	25	30

	調査件数（件）				
	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
新規契約	9	11	10	6	11
終了(中止を含む)	13	11	9	6	10
次年度継続	19	18	18	19	20

	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度
実施症例数	35	40	9	12	16
金額	1,196,500	1,827,000	302,400	640,332	663,552

## 広報・ホームページ検討委員会

主事 引屋敷 駿

### 1 部門の紹介・概要

広報・ホームページ委員会は、市民向け広報誌「和・いわい」の発行と、病院のウェブサイトやフェイスブックを情報発信のツールとして、対外的な広報活動を行っております。

平成28年度は、市民向け広報誌「和・いわい」を3回（7月・9月・1月）発行しましたが、年4回発行という目標には届きませんでした。年間の発行計画に基づき、適切な進捗管理をしていかなければならないと思います。

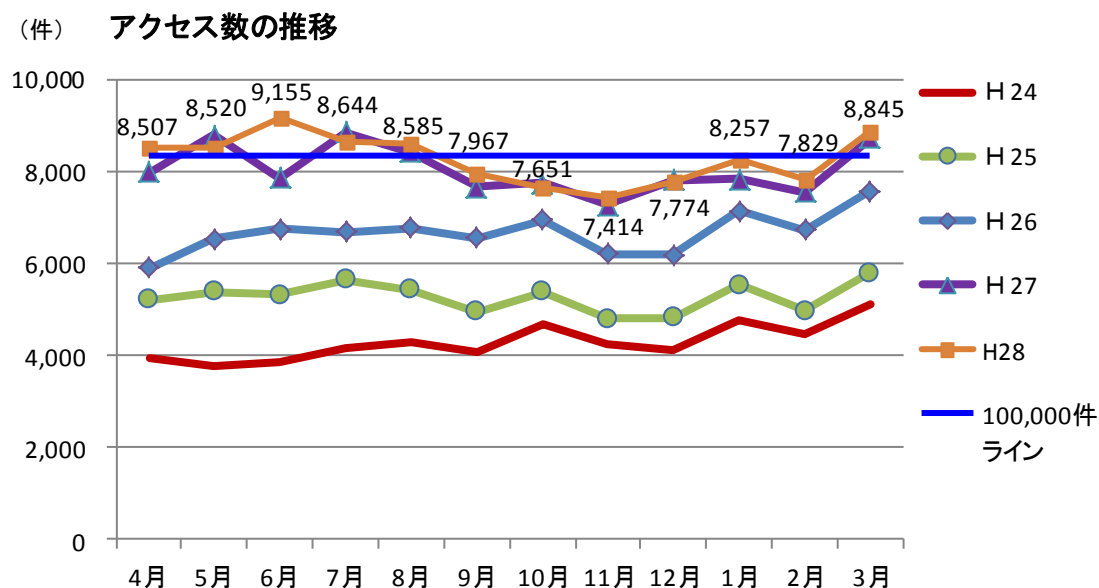
病院のウェブサイトについては、アクセス数が年々伸びており、月平均で8,000件を超えております。

来年度は、市民向け広報誌年4回の発行、ウェブサイトのアクセス数月平均9,000件を目標

に取り組んでいきます。

## 2 運用状況

### (1) 病院ウェブサイトのアクセス数



### (2) フェイスブックの『いいね』の上位3位の記事及び件数

順位	掲載日	概要	件数
1位	5/10	5病棟ティータイムの様子	33件
2位	6/8	6/5に行ったどこでも医療講座	32件
3位	5/25	5/12・13に行った高校生対象とした「ふれあい看護体験」	27件

## 臨床検査技術科運営委員会

副臨床検査技師長 千田 百合子

当委員会は、厚生労働大臣が定める施設基準に則り、臨床検査の適正化を図り、業務の効率的運営および他部門との円滑な運営を図ることを目的として設置されている。平成28年度の委員会は6月8日と3月17日に開催された。

### 1 検査実績について

検体検査件数および診療報酬点数は過去2年間と比較してやや減少傾向であり、総患者数と比例している。生理検査件数は昨年並みであり、点数の高い乳腺エコー等の増加により診療報酬点数はやや増加した。外科の術中迅速病理診断は、公立刈田総合病院の山口病理医の定期診療応援を継続して実施しており、総件数は昨年と同様である。

### 2 精度管理について

内部精度管理は日常業務のデータ保証として毎日実施しており、科内で統計処理を行い管理している。さらに医療局臨床検査業務検討委員会へ報告し、県立病院間での比較検討を行っている。外部精度管理として、日本臨床検査技師会精度管理調査および日本医師会精度管理調査

等に参加しており、全ての項目で非常に良好な評価を受けている。

### 3 機器整備について

自動生化学分析装置 AU680 および AU5800 が更新され、処理能力の向上により検体処理時間が短縮され、外来診察の迅速化や救急患者の病態把握に役立っている。

### 4 B S C 重点的取組事項

患者満足度調査においてクレームがあった接遇に関し、院長を講師として接遇研修を2回実施した。今後もクレームを無くすよう継続的に取り組む。患者への検査説明は、件数は多くないが患者から好評であった。他職種連携による業務負担軽減への取り組みでは、医師の代りに各領域のエコー検査を実施している。また、早朝の病棟検体搬送や中央処置室検体の搬送、昼食時間帯における中央処置室での採血業務、翌日分の病棟採血管準備、新生児のヒール採血および聴力検査、外来での聴力検査等を実施している。

## リハビリテーション技術科運営委員会

主任理学療法士 関谷 淳一

リハビリテーション技術科運営委員会は年2回(5月・11月)開催され、

- ①リハビリテーション技術科の運営に関すること
- ②リハビリテーション技術科の業務改善及び効率化に関すること
- ③リハビリテーション技術科と他部門との連絡調整に関すること
- ④業務実績の報告と検証

について、主に話し合いリハビリテーション技術科の効率的かつ円滑な運営を目的に開催されています。

平成28年度に検討された議題としましては

- 1 第1回リハビリテーション技術科運営委員会(平成28年5月25日)
  - (1)平成28年度業務実績について(処方件数・実施件数/単位数・診療区分別分析)
  - (2)平成28年度リハビリテーション関連診療報酬改定について
    - ①目標設定等支援管理料について
    - ②摂食機能療法について
  - (3)平成27年度B S C結果報告と平成28年度について
- 2 第2回リハビリテーション技術科運営委員会(平成28年11月24日)
  - (1)平成28年度上半期業務実績について
  - (2)リハビリテーション総合実施計画書運用方法一部変更について
  - (3)目標設定等支援管理料について

平成28年度は摂食機能療法が開始されました。リハビリテーション総合実施計画書において看護師の負担軽減のため運用変更にも取り組みました。

また、整形外科の各部位骨折パスが追加され、リハビリオーダーもスムーズに行われております。

今後も各関係機関、他部門との関係構築を強化し、リハビリテーション機能の強化を進めていきたいと考えております。

# 年報作成プロジェクトチーム

主事 引屋敷 駿

## 1 部門の紹介・概要

年報作成プロジェクトチームは、当院の業績及び活動の記録として、病院事業年報を円滑に作成し、地域の医療機関、関係機関へ発信するために活動しています。

本年度の発刊は「平成 27 年度病院事業年報」であり、装丁や誌面構成は、原則的に平成 26 年度版と同様としました。内容は、事業実績を中心に、各部門、職員の専門分野に係る活動実績等を記録しまとめたものですが、変更点として以下の 2 点が挙げられます。

- ・院内組織図を拡大し 2 ページを使い表示したこと。
- ・部門別活動報告に呼吸器科、眼科を新たに追加したこと。

病院年報の発刊としては、「できるだけ早い時期に作成する」と院長から求められていました。今年度は、比較的早い段階（11 月中旬）に発行できたと思いますが、スケジュール管理を徹底することにより、もう少し早い段階で完成できたのではないかとこの反省点が挙げられました。次年度の編集作業では、チーム内での進捗状況を共有しながら進めていくこと、原稿依頼をする際注意事項等を徹底周知することを中心に取り組んでいく必要があると思います。

配布先は、一関市内や宮城県北部のほか、県内の関係医療機関、東北各県の大学病院（各医局）としました。連携関係にある医療機関に対し、当院の業績及び活動実績を適切に発信できるよう、さらなる研鑽を重ねていきたいと思っております。

## 2 配布先及び部数

配布先	部数
大学病院	213 ※
医療局・岩手県立病院	26
官公庁・医師会等	6
市内医療機関	68
県内医療機関	18
宮城県・県外医療機関	61
訪問看護ステーション	11
特別養護老人ホーム	14
介護老人保健施設	8
小規模多機能型居宅介護	6
小規模特別養護老人ホーム	5
居宅介護支援事業所	28
合計	464

※大学病院は医局毎に配布した

